
令和7年度第2回かながわつながりネットワーク (神奈川県版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム)

令和8年1月29日

神奈川県福祉子どもみらい局
福祉部生活援護課

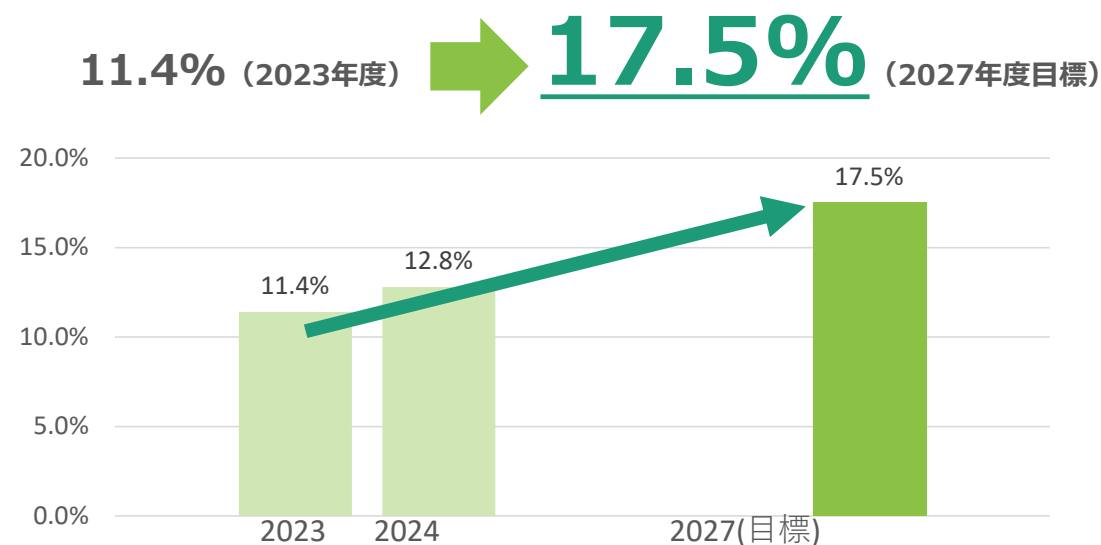
1 県の孤独・孤立に対する方針

- 新かながわグランドデザイン（県総合計画）での位置づけ
- 神奈川県における孤独・孤立対策の取組方針と4本柱

1-1 新かながわグランドデザイン（県総合計画）での位置づけ



「誰もが地域で孤立することなく、
困ったときに助け合えるつながりを持っていること」
に関する満足度（県民ニーズ調査）



新かながわグランドデザイン実施計画（R6.3）

1-2 神奈川県における孤独・孤立対策の取組方針と4本柱

方針

孤独・孤立の「未病改善」

4本柱

- ① 声をあげやすい・かけやすい社会づくり
- ② 状況に合わせた切れ目のない
相談支援につなげる仕組みづくり
- ③ 人と人とのつながりを実感できる地域づくり
- ④ NPO等の活動を応援し、
多様な担い手が連携する土壌づくり

※令和6年度第1回かながわつながりネットワークでの検討や支援団体等へのヒアリングをもとに、令和6年度第1回神奈川県生活困窮者対策推進本部にて検討

1-3 孤独・孤立の未病改善

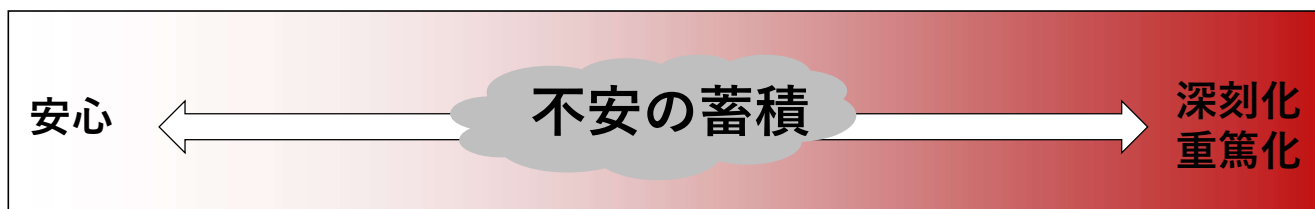
孤独・孤立や生活困窮の「**不安**」は
日ごろから**ライフステージ等の変化**に
応じて**段階的に**変化する。



孤独・孤立や課題を抱えてからではなく、
日ごろからの地域での緩やかなつながりや
支援者と相談機関との間につながり
を持たせることで、
当事者の様々な不安の状態の中でも改善
に向ける。

= **未病改善！**

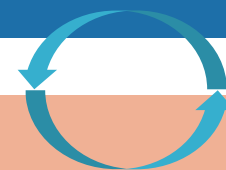
(当事者の状態)



当事者の状態に合わせて
地域と専門機関それぞれのサポート
により「**未病**」を改善

専門的な相談・支援

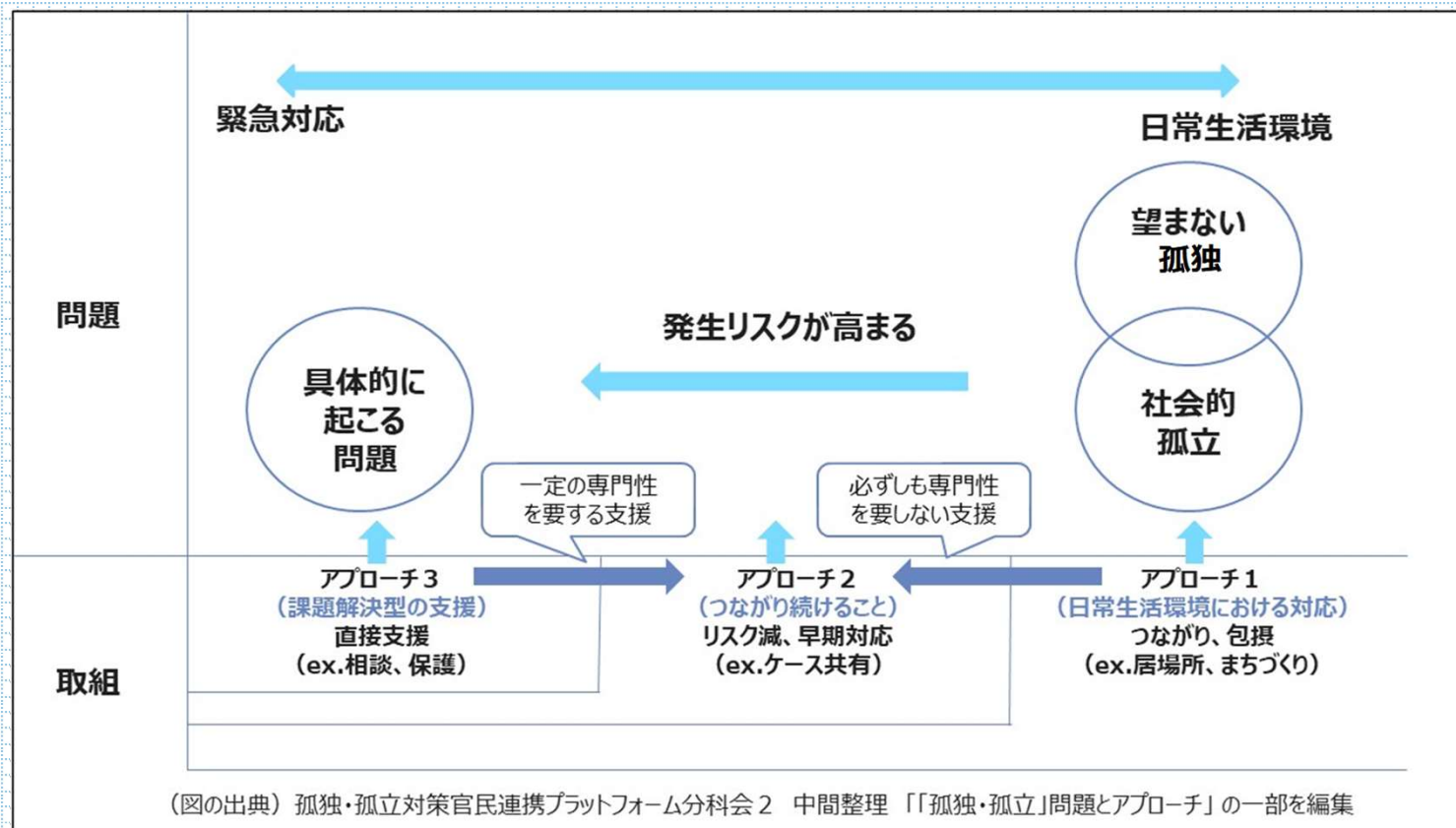
地域での緩いつながり



地域や支援者
と相談機関
のつながり

(参考) 「孤独・孤立」の問題とアプローチの全体像

孤独・孤立対策においては、アプローチ3「具体的に生じた課題を解決するための緊急対応(相談支援体制等)」のみならず、アプローチ1「日常生活環境(地域社会のあらゆる生活環境)における対応」、さらにアプローチ2「つながり続けること」が、**予防や早期対応の観点**からも重要。



2 かながわつながりネットワークの目的・テーマ

- かながわつながりネットワークの目的
- 孤独・孤立対策に係る連携の土壌づくりについて
- かながわつながりネットワークの共通テーマについて

2-1 かながわつながりネットワークの目的

孤独・孤立対策推進法の趣旨を踏まえ、
地域の関係者（分野を越えた産学官民の主体）が
顔の見える関係でネットワークを構築し、水平的な連携・協働を推進
→緩やかなつながりのモデルや事例を発掘・創出し、県内に普及

連携・協働の推進を通じて
孤独・孤立の未病改善を図り
グランドデザインの目標達成
をめざす

当事者や担い手
のニーズ
(課題)

地域の
ニーズとシーズを
マッチング!



多様な担い手
のシーズ
(社会資源)

2-2 ネットワークの取組みを進める上での課題

課題	対応
担い手が抱える課題や社会資源の 把握と情報共有	連携の土壌づくり 多様な担い手（産学官民）に 当ネットワーク参加 を呼びかけ 多様な担い手が抱える 課題 と 有する 社会資源 を 収集・共有 併せて視察会や交流会など 顔の見える関係づくり
課題と社会資源の マッチングの難しさ	
メンバーが一丸で取り組める 共通テーマの設定 ※	共通テーマの設定 孤独・孤立の未病改善や緩やかな つながりに係るテーマを設定

※孤独・孤立対策推進法の趣旨を鑑み、県として特定の分野や対象に限定する意ではなく、多様な担い手間で共有して取り組むためにテーマ設定したい。
また、個々のメンバー間の連携や協働を制限するものではない。

2-3 孤独・孤立対策に係る連携の土壌づくり

- ・ 多様な担い手に**当NWへの参加**を呼びかけ
- ・ 担い手の課題と社会資源の**情報収集・共有**
- ・ 視察会や交流会など**顔の見える関係づくり**



2-4 かながわつながりネットワークの共通テーマ

構成員等の連携による

① つながることへの普及啓発・機運醸成

(つながりサポーターの養成や孤独・孤立対策強化月間を中心とする広報など
つながること・周囲に相談することへのムーブメントづくり)

② 社会参加・地域参加の機会づくり

(就労・就労体験・ボランティア・文化・スポーツ・イベント・
生涯学習、オンラインコミュニティなど
社会デビュー・社会参加、地域デビュー・地域参加の機会づくり)

※孤独・孤立対策推進法の趣旨を鑑み、県として特定の分野や対象に限定する意ではなく、多様な担い手間で共有して取り組むためにテーマ設定したい。
また、個々のメンバーの課題意識やメンバー間の連携や協働を制限するものではなく、個々の連携・協働の推進も併せて取り組んでいく。

3 神奈川県における孤独・孤立対策事業の進捗状況

- かながわつながりネットワークの拡大
- 構成員による連携事例
- つながりサポーター養成講座
- ゆるやかなつながりの拠点を担う人材育成・支援
- 他のネットワークとの連携
- エール“ガバメント×ベンチャー”アライアンスかながわ（YAK）
- オンライン研修・視察研修

3-1 かながわつながりネットワークの拡大

35団体⇒47団体へ

社会福祉法人、NPO、老人クラブ、企業、行政等の
多様な担い手が参画

今後、さらにメンバーを拡大していくとともに
具体的な官民・民民連携の取組みを推進

3-2-1 かながわつながりネットワーク構成員による連携事例その①

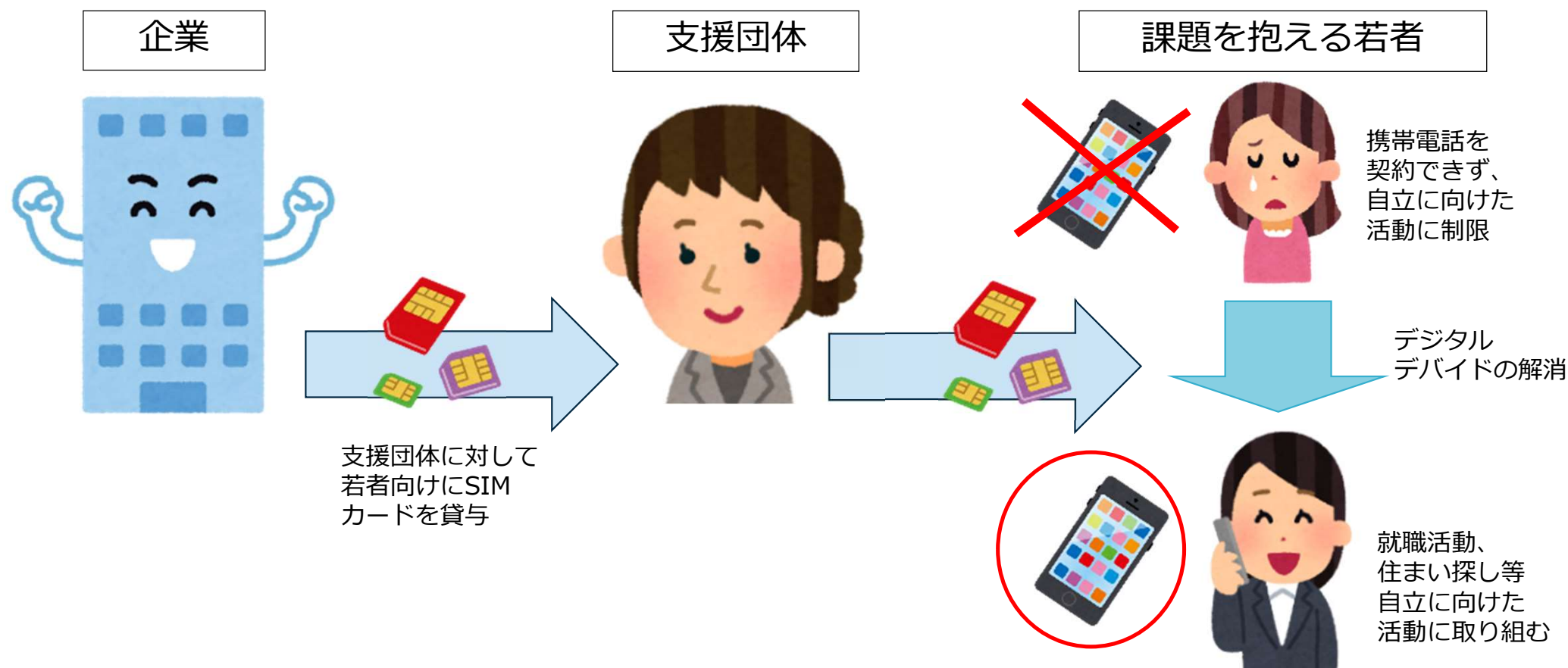
孤独・孤立対策で連携！居場所を利用する子どもたちと企業との「食」を通じた交流会を実施しました！（令和7年9月19日記者発表、9月29日実施）



実施主体：認定特定非営利活動法人フリースペースたまりば、株式会社ファンケル、株式会社ツルハ

3-2-2 かながわつながりネットワーク構成員による連携事例その②

孤独・孤立対策で連携！デジタルデバイドの解消により孤立・困窮する若者の自立を支援します！（令和8年1月5日記者発表、現在実施中）



実施主体：公益社団法人アマヤドリ、株式会社ユーリカ・ワイヤレス

3-3 つながりサポーター養成講座

- 孤独・孤立対策推進法に基づき、孤独・孤立に関する理解の促進と、本人ができる範囲で孤独・孤立を防ぐための担い手となる「つながりサポーター」を養成する講座を開催
- 自治体職員、老人クラブ、社会福祉協議会等を対象に県内各地で開催中。計525名が講座を受講。
- 受講者の対象を専門的知識をもたない国民全般とし、専門家を育成するのではなく、日常生活の声かけ等から、声を上げやすい社会環境づくりを目的とする。



ゆめクラブ大和 友愛研修会(令和7年6月26日)



箱根町ボランティア連絡協議会・生活支援コーディネーター(令和7年6月26日)

3-4 ゆるやかなつながりの拠点を担う人材育成・支援

- 地域のゆるやかなつながりの場を担う地域人材を育成するため講座を開催。
- 県内でカフェ型の居場所を提供しているNPO 法人を講師とし、実体験を踏まえた講義を行うとともに、居場所の運営体験や、居場所づくりを応援する地域団体等との交流も交えた講座。
- 講座を通して学んだことや思いを発表する「わくわく構想発表会」を実施。23名の受講者が発表。



インターンの様子@こまちカフェ(令和7年11月15日)



わくわく構想発表会(令和7年12月6日)

3-5 他のネットワークとの連携

かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（生活困窮）、ビジネスアクセラレーターかながわ（産業振興）、人生100歳時代ネットワーク（コミュニティ）、かながわSDGsパートナー（SDGs）など
県の既存ネットワークと連携して、孤独・孤立対策やつながりづくりをテーマに意見交換や取組検討

かながわつながりネットワークのご案内
（神奈川県版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム）

令和7年8月28日

神奈川県福祉子どもみらい局
福祉部生活支援課



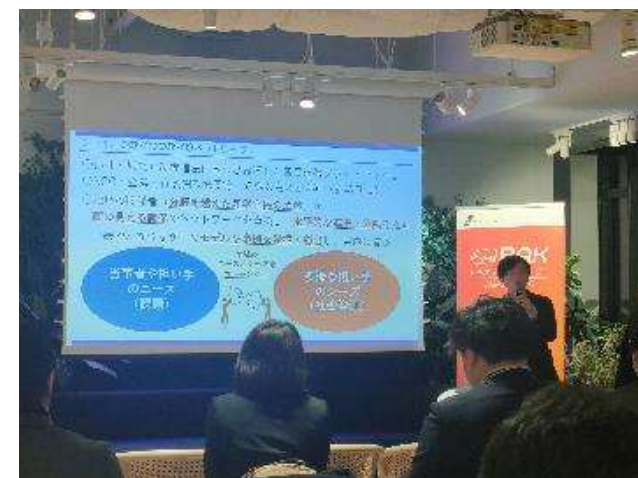
人生100歳時代ネットワーク通常会に参加

（令和7年8月28日）

かながわSDGsパートナーMTG
「多様な主体の共創による課題解決

～困難を抱える子ども・若者等への支援～」

（令和7年12月23日）



兵庫県×神奈川県 ベンチャー・地元企業・自治体が集合！

「ひと」起点の事業共創

（令和8年1月15日）

3-6 エール“ガバメント×ベンチャー”アライアンスかながわ（YAK）

事業者や地域が主体となって孤独・孤立対策が県内で広まることを期待し、
「人と人とのつながりを促す事業者コミュニティの確立」でエントリー



2つの提案事業が採択！！

YAK



地域で“緩やかな繋がり”を育む
コミュニティナース実装プロジェクト

CNC

株式会社CNC（島根県雲南市）

シニアを中心に孤独・孤立している人と
地域サポーターをつなぐ地域共助の実現

OTERA

株式会社OTERA（逗子市）

3-7-1 地域で“緩やかな繋がり”を育むコミュニティナース実装プロジェクト

プロジェクト概要

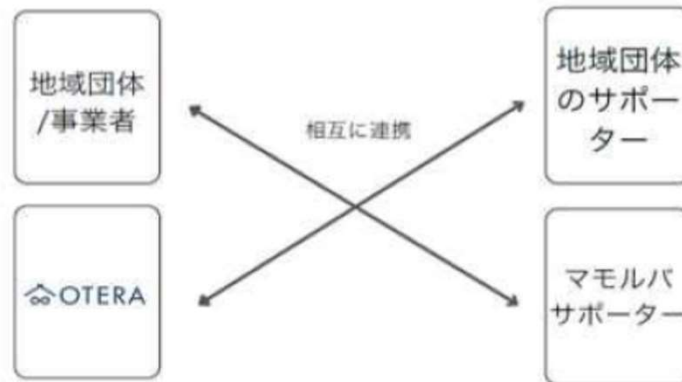


心地よいお節介によって人とのつながりをつくり、まちを元気にする「コミュニティナース」という取組を実践してきた株式会社CNCと、孤独・孤立対策に取り組む神奈川県生活援護課が連携し、県内の高齢者や子育て世帯などの孤独・孤立が顕著なエリアにおいて、地域で働く人などによるコミュニティナースの実践を通じて住民同士のつながりを育むことで、孤独・孤立の状況改善に取り組む実証を行う。この取組により、まちづくりを行う鉄道会社などの事業者も巻き込みながら、神奈川県から孤独・孤立解消に向けた「都市型モデル」構築し、全国への展開を目指す。

3-7-2 シニアを中心に孤独・孤立している人と地域サポーターをつなぐ地域共助の実現

プロジェクト概要

実証実験①官民・民民の連携



実証実験② アプリを活用した地域との接続



簡単に高齢者の安否確認ができるスマートフォンアプリと困りごとを解決する地域サポーターをマッチングするサービスを提供する「マモルバ」を展開する株式会社OTERAと、孤独・孤立対策に取り組む神奈川県生活援護課が連携し、地域団体や地域サポーター、行政等が相互に連携しながら、地域全体で孤独・孤立対策を行うネットワークを創出するとともに、アプリを活用して高齢者とサポーターを適切にマッチングする実証を行う。この取組により、孤独・孤立解消に向けた官民連携・民民連携による地域共助の「かながわモデル」の構築を目指す。

3-8 オンライン研修・視察研修

- ・ 孤独・孤立対策推進法や各取組への理解を深めるため、NPOや市町村職員等の支援員向けに研修を実施。
- ・ 講師や視察先は、独自の取組により孤独・孤立対策を進めるNPO・団体や、行政職員等に依頼。
- ・ 参加者同士の情報交換・意見交換等の場も設定。

神奈川県 第1回 孤独・孤立対策研修会

「世代間を越えた地域づくりを考える」

地域の様々なつながりや孤独・孤立対策に向けて、特定非営利活動法人ソニリッサ代表理事の萩原涼平さんを招いた研修会（オンライン）を行います。同法人は群馬県前橋市を拠点に、若者が「まご」のように高齢者に寄り添う「まごマネージャー育成講座」などに取り組んでいます。本研修会では、このユニークな活動から、実践的な取組の具体例や、地域でできることのヒントを学べます。参加者の皆様が、それぞれの地域で人と人とのつながりをつくるためのきっかけとなれば幸いです。ぜひご参加ください。

こんな方にオススメです

- 地域でのつながりづくりに取り組んでいる方
- 高齢者支援に取り組んでいる方
- 多世代交流に取り組んでいる方
- 孤独・孤立対策に興味のある方

日時 10月28日(火) 10時～11時30分 オンライン開催 (Zoom)

1. 講演

若い力が独居高齢者と地域コミュニティのハブに 優しいつながり溢れる社会をめざす『まごマネージャー』

特定非営利活動法人ソニリッサ 代表理事 萩原 涼平 氏

プロフィール

特定非営利活動法人ソニリッサ代表理事。中学時代、祖父を亡くし、生きがいを失った経験から、高齢者の生きがいを支える活動の重要性を痛感。その経験を生かして、地域で子どもと高齢者が交流できる場を創出し、ソニリッサを設立。群馬県前橋市を拠点に、若者が「まご」のように高齢者に寄り添う「まごマネージャー育成講座」をはじめ、介護・企業・住民が互いに支え合う「まごコミュニティ」を展開。分府を越えた連携を通じて、「ひとり暮らし」や「ひとり暮らし」が溢れる社会」の実現を目指している。近年は、群馬県若年市民会館にも加わり、若者の社会参加を促すプログラム開発や講演活動にも取り組んでいる。

「地域の活動、孤立対策に関する役員・職員連携」事例に鑑み

群馬県地域づくり AWARD 大賞
群馬県社会福祉協議会プラットフォーム推進員
加賀「おはようほろ」NPO「高齢者の心」テレビ東京「おはようほろ」
群馬新聞、毎日新聞、毎日新聞など多数掲載

2. 質疑応答

お申し込みはこちらの二次元コードから

2次からの参加申し込みが難しい場合は事務局までお問い合わせください。

問い合わせ 事務局（神奈川県から委託：株式会社タウンニュース社会事業部内）
☎ 0120-192-389 受付：平日 10時～17時 kikaku-e@townnews.jp



「世代間を越えた地域づくりを考える」

特定非営利活動法人ソニリッサ代表理事 萩原 涼平 氏

(令和 7 年10月28日)

地域の様々なつながり・見守りづくり情報交流会

垣根を越える協働が 団地(まち)の未来を切り拓く

多世代が集う交流拠点「相武台団地」視察会

県では、孤独・孤立対策推進法の施行に伴い、人と人との「つながり」を築ける地域づくりに取り組んでいます。この取組の一環として、県庁内や地域の多様な若い世代と、地域における様々なつながりや、孤独・孤立対策について情報共有・意見交換の場を設けています。今回は、相模原市で多世代が集う交流拠点として進化を続ける「相武台団地」の視察会を企画しました。地域の大学など様々なパートナーと連携し、団地の再生に乗り出した神奈川県住宅供給公社の担当者から、直接お話を聞ける貴重な機会となっております。ぜひご参加いただけますと幸いです。

日時 令和7年 11月28日(金) 15時～17時

場所 相武台団地 ユースレ相武台 （近所交流センターでお越しください）

神奈川県相模原市南区相武台団地2丁目3-4
小田急小田原線「相武台」駅下車 徒歩19分、または「団地センター」下車 徒歩1分
「小田急相模原線」下車 徒歩21分

相武台団地
1965（昭和40）年から相模原市に計画的に開発。開発面積3.4ha、賃貸住宅1棟446戸、分譲住宅1棟200戸、総戸数約2,200戸の複合団地。その時、高齢者の生活や若者の生活が共に暮らす団地の再生に向け、神奈川県住宅供給公社は、様々なパートナーと連携、つながりをつくり出している。中でも団地を再生した取り組みを実施している。

定員 30名(先着順) **参加費 無料**

ナビゲーター 神奈川県住宅供給公社 高齢者事業部 部長 一ツ谷 正範 氏

お申し込みはこちらの二次元コードから >>>>>>

※定員になり次第、締切させていただきます。

事務局（株式会社タウンニュース社会事業部内）
問い合わせ ☎ 0120-192-389 受付：平日 10時～17時 kikaku-e@townnews.jp
※本報編集委員会、神奈川県「生活情報課」からの委託により運営しております。



「垣根を越える協働が団地（まち）の未来を切り拓く」

神奈川県住宅供給公社 高齢者事業部 部長 一ツ谷 正範 氏

(令和 7 年11月28日)

4 協議・報告事項

- 連携事業マッチングの仕組みについて
- 構成員の活動報告について
- 安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について
- 本ネットワークの今後の取組について

4-1 連携事業マッチングの仕組みについて

構成員同士の連携事業を創出しやすくするため、次のことを検討しています。

- 1 構成員の活動内容・課題・提供可能資源等の見える化
- 2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

- ・ 県HPに各構成員の活動内容・課題・提供可能な資源を公開
- ・ 県HPに構成員のHPへのリンク掲載

活動内容・課題・提供可能な資源のとりまとめを公開

2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

現在、連携事業を創出するためのマッチングの仕組みがなく、各個別の事案を随時事務局が受け止め、適切であろう連携先に打診し、調整を行っている。



①連携事業を希望する団体がエントリーシートを提出

②事務局が別途作成する要領（ルール）に基づき、**要件**に合致しているか確認するとともに、事業実施にあたっての**諸条件**を確認

※要件のイメージ 孤独・孤立対策に資する取組か、県民を対象としているか、特定の政治・宗教等を支持するものではないか、営利を主たる目的としている又はその旨県民に疑念を抱かせる内容になっていないか 等

※諸条件のイメージ 自前で用意できるもの・連携相手に求めるものは何か、いつ・どこで・どのような方を対象とし・何名程度に行うのか、費用負担は必要か、希望する連携相手は誰か 等

③確認の結果、適当と認められる場合は、希望する連携相手に情報提供する（県がつながりがある相手のみ）とともに、一覧化し、県HPに公開

2 構成員×構成員、構成員×県内団体との連携事業エントリーの仕組み化

福岡市NPO出前講座一覧

講座名	講座概要	対 象	人 数	時 間	準備が必要なもの	費 用	実施団体
こども							
8 子育て家庭への地域サポートを考える講座	私たちは、各方面から寄贈いただいた大切なランドセルを磨き上げて、それを必要としてくださるご家庭にお渡しする「ランドセルバンク」というリユースの取組みを進めています。これまでに200個ほどのランドセルを様々なご家庭にお渡ししてきました。(R5.4月現在)受取ってくれたお子さんの中には、ウクライナから緊急避難してきたご家庭の女の子もいました。本事業の紹介と併せて、「今、なぜこの取組みが必要なのか」を視点・切り口に、現在の子どもたちや子育て家庭を取り巻く環境について考える講座です。	子どもから大人まで	何名でも可能	1時間程度	プロジェクター、スクリーン、会場によってはマイク等	無料	NPO法人 次世代のチカラ FUKUOKA
9 公民館を活用した不登校のお子さんへの居場所づくり	不登校児童生徒の急増という大きな社会課題局面に対して、地域主体で取り組める子ども支援を考える講座です。公民館を活用して地域の大人が協力し合いながら、学校に通えていないお子さんの居場所づくり・学習スペースの支援に取り組んでいる事例を題材に、地域の受け皿としての可能性を探ります。	地域の大人	何名でも可能	1時間～2時間	プロジェクター、スクリーン、会場によってはマイク等	無料	NPO法人 次世代のチカラ FUKUOKA
10 PATORUN One-Day(パトランワンデイ)～パトラン体験～	パトランは、パトロールランニングの略で、ランニングを活用した新しい形の防犯活動です。街を走ってパトロールする取り組みです。パトラン体験プログラム「PATORUN One-Day」は生きづらさや障がいなどを抱える子どもたちに向けて、パトランを体験していただく取り組みです。	小学生から高校生の子どもたち	5～20名	90分程度	要相談	1回 18,000円	認定NPO法人 改革プロジェクト
11 こどもアドボカシー講座～こどもの声を聴くために～	こどもの声を社会全体で聴く取り組み「こどもアドボカシー」の基本を学びます。学校や家庭、地域でこどもの声を大切にしながら活動するヒントを一緒に考えることもできます。	大人	何名でも可能	1時間～2時間	プロジェクタ、スクリーン、マイク	講師料15,000円/h	NPO法人子どもアドボカシーセンター福岡
12 キッズ体験☆体育教室	小学生を対象に、発達発達連の考え方を重視した体験トレーニングを習得します。またとろろどろといったオリジナルのツールを使った下肢の巧緻運動とリズム感を養うトレーニングで子供たちが楽しみながらトレーニングできます。	小学生	10～30名	90分	なし	1回10,450円～(要相談) (人数・回数によって異なる場合があります)	NPO法人 cocofull

一覧のイメージ（福岡市の取組を参考）

賛同いただけましたら、後日別途調査票やエントリーシート等をお送りし、皆様のご意向を照会いたします。

4-2 構成員の活動報告について

- 1 友愛活動について 神奈川県老人クラブ連合会
- 2 パルシステム神奈川の総合福祉について 生活協同組合パルシステム神奈川
- 3 地域のつながり実態把握調査について 大井町社会福祉協議会
- 4 その他

4-3 安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について

安心・つながりプロジェクトチーム

有識者や関係者からの意見を聴取し、現役世代も含めた単身高齢者等の安心・つながりづくりを始めとする孤独・孤立対策の推進に向けた検討に資することを目的に、孤独・孤立対策を担当する内閣府特命担当大臣の下、設置されたプロジェクトチーム。



安心・つながりプロジェクトチーム取りまとめ ～お互い様のつながりづくり～

令和7年7月31日

ポイント

- ① 居場所づくりは、日常生活動線上で、「楽しいこと」「やりたいこと」が重要。「役割」や「出番」をつくり「頼る」。
- ② 民間企業は、事業活動を通じたつながりづくり、社員間・社員と地域とのつながりづくりの重要な担い手。
- ③ 退職後の孤独・孤立は皆が直面し得る課題。社会や地域とのつながりづくりなど、現役世代からの「備え」が重要。

- 今後、単身世帯が増加し、孤独・孤立のリスクを抱える単身の方が増加する懸念（2050年に全世帯の44.3%と推計）。
 - 年齢を重ねて身体機能や認知機能の衰えなど高齢期の課題を抱えつつも、社会や人々と適切につながりながら、**単身の方が安心して生き生きと暮らしていける社会づくり**が必要。
- ⇒ ①身寄りがない状況にある高齢者等への支援に係る施策
②**孤独・孤立の予防のための中長期的視点に立った対策**
- 単身で身寄りがなくとも、日常生活から死後の手続まで困ることなく、適切な支援を受けられるような仕組みを社会の基盤として実装。

【PTの重点】

- ✓ 現在、単身で身寄りのない高齢者の孤独・孤立の予防と、将来を見据え、現役世代を含め、今後増加していく単身者が高齢期に至っても社会とのつながりを持ち、孤独・孤立状態に至らず、安心して高齢期を過ごすことができるような、中長期視点に立った対策を併せて重点的に議論。

- 関係省庁や地方自治体において、意思決定支援・身元保証や死後事務等についての様々な施策が講じられ、有識者による議論も深められている。
- ⇒ 本PTにおいては、関係省庁の取組との役割分担の観点も踏まえ、議論等の状況を把握。

①居場所・つながりづくりの在り方

多様な居場所づくりの促進

- 「SNS以上しがらみ未満」の緩やかなつながりが求められる。
- 居場所の特性（交流型・支援型）を意識し、多数（どこも）・多様（どこか）な居場所が必要。
- 「課題」を入口にするのではなく、好きなこと、やりたいことを「タグ付け」。
- 担い手自身が「楽しい」と思える居場所づくり。
- 日常生活動線上で自然に集える工夫。

- モデル事業、交付金の重点的な活用。
- 地方における官民連携基盤（プラットフォーム）の設置加速化。

担い手の確保に向けた取組の在り方

- 地域活動の担い手の高齢化やシニア層の担い手不足に直面。
- コーディネーター／リーダーの養成と、現場の活動の担い手を両立する必要。
- できる範囲で、無理なく地域活動に参画する潜在的な担い手の掘り起こし。
- 居場所役割を果たし、支え合う。

- つながりサポーターの普及促進。
- 地域の活動と人材とのマッチング支援。
- リーダー養成研修、民間企業の取組促進。

②支援につなげる際の課題

受援力を高めるための個々人の意識醸成の在り方
声を上げづらい方等に支援を届けるための取組の在り方

- 「助けを求めたり、相談することは恥ずかしいことではなく良いこと」という理解の浸透。
- 働く女性が増え、退職を契機に社会とのつながりを失いかねないという課題に皆が直面し得る。
- 特に若者・現役世代へのアプローチが重要。
- 「支援の対象」と扱わず、「役割」や「出番」をつくり「頼る」こと。自己肯定感・有用感。

- 広報・啓発の強化によるスティグマ解消。
- 民間企業への働きかけによる現役世代への啓発。
- 「役割」の共通認識の形成。

③行政が果たすべき役割及びNPO等や民間企業に期待される役割について

● 国・地方自治体

- ✓ 官・民・NPO等の水平的な連携基盤づくり
- ✓ 後方支援、広報・啓発

● 市民社会組織やNPOなど

- ✓ 多様な居場所・つながりづくりの中心的な担い手
- ✓ 顔の見える関係の構築

● 民間企業

- ✓ 社員間・社員と地域とのつながりづくり
- ✓ 退職後に備えたつながりづくり
- ✓ 事業活動を通じたつながりづくり

4-3 安心・つながりプロジェクトチームの検討結果について

意見交換

ポイント

- ①居場所づくりは、**日常生活動線上**で、「**楽しいこと**」「**やりたいこと**」が重要。「**役割**」や「**出番**」をつくり「**頼る**」。
- ②**民間企業**は、事業活動を通じたつながりづくり、社員間・社員と地域とのつながりづくりの重要な担い手。
- ③退職後の孤独・孤立は皆が直面し得る課題。社会や地域とのつながりづくりなど、**現役世代からの「備え」**が重要。



これらを踏まえ、NPO・企業・行政等、それぞれの立場において果たすべき・期待される役割について、構成員の皆様からご意見を伺いたい。

4-4 本ネットワークの今後の取組について

[協議事項]

各構成員が抱える課題や、提供できる資源を持ち寄って、連携事業を実施できないか、ご意見を伺いたい。

(課題例：活動を行う施設がない、活動を担う人員が足りない、活動を広める手段がない、(子供・高齢者・生活困窮者等)の〇〇体験・〇〇活動が不足している、孤独・孤立状態の方が活動する場がない、孤独・孤立状態の方を把握するのが難しい、孤独・孤立を抱える方をつながりの場と引き合わせることができない)

(資源例：提供可能な遊休物資・遊休施設がある、〇〇体験、〇〇活動のノウハウがある、〇〇地域に対する周知の方法を有する、〇〇とのつながりがある 等))

事務連絡

次回について
(令和8年5月頃を予定 別途日程調整)

つながろう かながわ

